

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学教育学部2年 粟飯原 千夏

①学習成果

今回のプログラムに参加したことで、これまで海外経験がほとんどなく国外に行くことにあまり積極的でなかった考え方が変化した。サークル等の関係で長期の留学は難しいが、留学に対して感じていたハードルの高さは少しやわらいだと感じる。過去最長の海外滞在だったこともあり、これを機に長期滞在へのイメージも持てるようになった。

また、大学で学習している第二外国語について更なる理解を深めたいと感じるようになった。来期の中国語の授業は、今までとは違った視点で文章や教授の雑談に接することができそうだと思う。

②海外での経験

最も印象に残っているのは、初週の週末にパスケースを紛失したことである。香港での生活に慣れ始めた滞在7日目、プログラムの仲間と香港の地下鉄に乗ってディズニー駅に向かっており、パスケースはリュックのサイドポケットまたは洋服のポケットに入れていたのだが、その過程で落としか、あるいはスリにあったのだと思う。大学駅からディズニー駅の間には乗り換えが三回あったことも災いして、ついに行方はわからないままだった。香港の地下鉄の遺失物調査(ネットで登録できる)にも二回挑戦したが、見つからないとのメールが返ってくるのみであった。パスケースの中には香港中文大学の学生証、寮のルームキー、約1万円の残高が入った八達通(香港におけるSUICAのような交通系カード)、500香港ドル(約1万円相当)、日本円5000円、さらには常備薬まで入っていた。香港は治安がいいとは聞くが、電車内の広告にもスリへの注意喚起を行うものも多く、スリの可能性も否定できない。来年以降参加される学生には、スリ対策・紛失対策を講じることを強く勧めたい。数日後に否応なく学生証・ルームキー・八達通はすべて再発行したが、再発行には合計5000円近くかかったと記憶している。

③プログラム内容

当初は中国語の授業の時間が多いために結局あまり香港の街を楽しむことはできないのではないかと危惧していたが、午前・午後の授業間の昼休みが2時間半と長いために昼休みに地下鉄に乗って少し出かけて昼食をとることなどもできた。加えて放課後も現地の学生と夕食に出かけることができ、本人が望みさえすれば十分に香港の街を満喫することが可能であった。授業に関して、私は上から二番目のクラスに在籍していたが、そこでは積極的な発言や発表ができる環境が整っており、中国語をとりあえず話してみることができた。先生も熱心で優しく、間違った発音や文法でも一旦すべて聞いてくれて、その上で訂正を加えてくださるのがとてもありがたかった。

また、大学が主導でのプレゼン発表会兼交流会やシュウマイ作り体験、(私は体調不良で参加できなかったが)ランタオ島ツアーなど、参加しやすいアクティビティも充実していた。自分で遊びを企画したり行先を考えるのが苦手な人でも楽しめるのではないと思う。

④進路への影響について

以前からマスメディア関連の仕事をしたいと考えており、そのこともあって近年発展の著しい香港ひいては中国圏への興味を持っていたが、今回の留学によって香港の魅力を発見するとともに中国文化の滋味深さに気づかされた。今までは日本での勤務を中心に考えており、国内で中国や東南アジアに関わる報道に携われたらと考えていたが、これを機に実際に現地の支部で働くことも視野に入れるようになった。また、HSKのような実用試験の受験も検討しており、そうしたスキルや経験が生きる場で働きたいと考えている。